



夏の酒

*

夏の酒

*

盃の

ラストに似たる

星月夜

百薬の

長の機嫌を

取り損ね

突きだしに

手を付けぬまま

三本目



梅酒瓶

風味付かばと

すぐ封を開け

梅酒瓶

梅を肴に

盗み酒

たむけ酒

友の分よと

深酒し

おもろうて
やがて侘しき
祭り酒

おもろうて
やがて悲しき
花火酒

渋滞の
尾灯も
夜景の賑わいと

秋の酒

*

秋の酒

*

秋明菊

山不如帰

焼秋刀魚

夕焼けに

人は火を焚き

山紅葉

秋風や

酒に涙の

一滴

翳雲

炙り肴に

夕日見酒

秋澄みし

空より高き

ひやおろし

秋刀魚焼く

炭火に杯も
爛になり

酒米の
実る田圃に
喉が鳴り

秋の雲
集めて白き
霞酒

泥酔いに
雨垂れの音
寺の鐘

酔いが醒め
虫の音を聴き
また吞めり

鳴く虫に
わも吞みたいかと
問いにけり

赤トンボ
追わず眺めつ
一人酒

乳飲み子を
抱きつ片手で
手酌酒

酒米の
実りに聞こゆ
仕込み唄

お銚子の
諸口空し
手酌酒

宵の口
夜更けてもまだ
酔いの口

秋深ば
風に火恋し
生酒かな

枯尾花
里に夕靄
酔い霞

一人酒
肴はスルメ
酌はダボ

猿酒に
もののけも酔う
秋の夕暮れ



冬の酒

*

冬の酒

*

冬桜

今日も酔いしは

あれのせいよと

般若湯

まずその前に

麦般若

酔う度に

縁を切りたる

腐れ縁

イカ徳利

スルメ食べずに

注ぎ足し

女房の

小言着に

あおり酒

爛徳利

そのなで肩に

かを思う

木枯らしに

襟を立てつつ

あおり酒

酔いが醒め

亡き妻の愚痴

思い出し

冬の酒 弐

出迎える
ものはなくとも
迎え酒

徳利の
揺れるさま見て
人恋し

枯れ紅葉
酔えば枯れ木も
春の賑わい

冬月を
浮かべて干せり
玉子酒

寒雷や
井酒の
ひびの様かな

冬紅葉
我が身重ねて
なごり酒

空雫子
又ふりて仰ぐ
月夜かな

名残酒
宵待ち月の
切なさよ

爛は煮ず
醸すものよと
のたまいけりに

乾杯は
杯を乾せよと
のたまいけるに

講釈を
たれて空しき
一人酒

猪口に注ぎ
我は徳利に
注ぎ返し

酔客の
頬をなだめし
初時雨

初雪に
酔いを醒まして
酔いに入り

徳利を
眺めて思う
人恋しさよ

雪見酒
淡雪落ちて
雪割りに

乾杯を
待てず自ら
名乗りあげ

酔わぬなら
酔うまで待とう
忘年会

泣き顔を
酒でごまかす
泣き上戸

忘年会
酒に逃げたる
われ一人

酔い醒ます
合間にビールを
流し込み

泣き上戸

笑い上戸に
呑み上戸

叫びたし
世のやるせなさに
酒浸し

かすとの
味が恋しき
年の暮れ

酔い果てて
酒を肴に
酒瓶をあけ

祝い事
待たず待たれず
一人酒



旅の酒

*

旅の酒

*

世は情け
旅は道連れ
道連れは酒

露草の
露を集めて
ましら酒

黄昏に
佇む友は
カップ酒

草枕
あては椎の葉
ましら酒

行きずりの
身の上交わす
カップ酒



旅酒場

口説くつもりが

宥められ

カップ酒

干してカップに

注ぎ足し

水鏡の

月にも酒を

呑ませけり

目散る酒

呑めば地獄の

一丁目

青山に

立ち出でて尚

劈頭にあり

かの為と

我に言い訳

土産酒

土産にと

買ってはみたもの
一人酒

月見酒

*

月見酒

*

ほろ酔いに

月も微笑む

二十二夜

日暮れ酒

宵口の酒

月見酒

名月を

浮かべて干せり

月夜かな

利き猪口の

蛇の目に似たる

月の虹

月見酒

月も隠れて

一人酒

名月を

待たずに乾せり

雲下の杯

群雲を

眺め雲見の

にごり酒

曇天に

ほろ酔いの星

描きけり

霞む目を
雲のせいよ
ごまかせり

花に風
月に群雲
おぼろ酒

杯を
残して朝日
昇りけり

曇り陽を
月に見立てて
小昼酒

徳利を
傾け杯の
底舐める

酔えずとも
絶えて久しき
月と酒

Yoidore-Senryuu

酔いどれ川柳

燃ゆる秋
稲穂は黄金
里ススキ

秋深し
錆びたナイフと
五七五

萩野花
尾花葛花
女郎花

秋深し
冷めたしぐさで
熱く見ろ

秋深ば
涙残して
笑いなよ

行く秋に
赤い皮ジャン
引き寄せて

秋行かば
恋のバンダナ
送ります

祝い酒
大杯に
映す望月

仏前に
供えて短し
一夜酒

お供えや
喉の仏にも
供え酒

酔わぬなら
酔わせてみよう
新年会

礼などは
いらぬそれより
杯を乾せ

土下座など
するなそれより
杯を乾せ

初日の出

曇りて受けり
霞酒

初春や
炬燵蜜柑と
湯呑み酒

盃の
笑う門には
酔い來たり

土産酒
客歸りしなに
封を切り

利き酒の
利けぬを良しに
安酒を呑み

今日の憂さ
晴らせど明日が
邪魔をする

盃の
ヒビにも似たる
寒雷や

雪割り草
雪で割りしの
花見酒

酔いどれ川柳

<http://p.booklog.jp/book/33373>

著者 : clark0226

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/clark0226/profile>

ウェブサイト <http://www.geocities.jp/barmithruxe/music/index.html>

ウェブログ <http://geocities.yahoo.co.jp/gl/barmithruxe>

Twitter <https://twitter.com/#!/clark0226>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/33373>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/33373>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパバー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブクログ